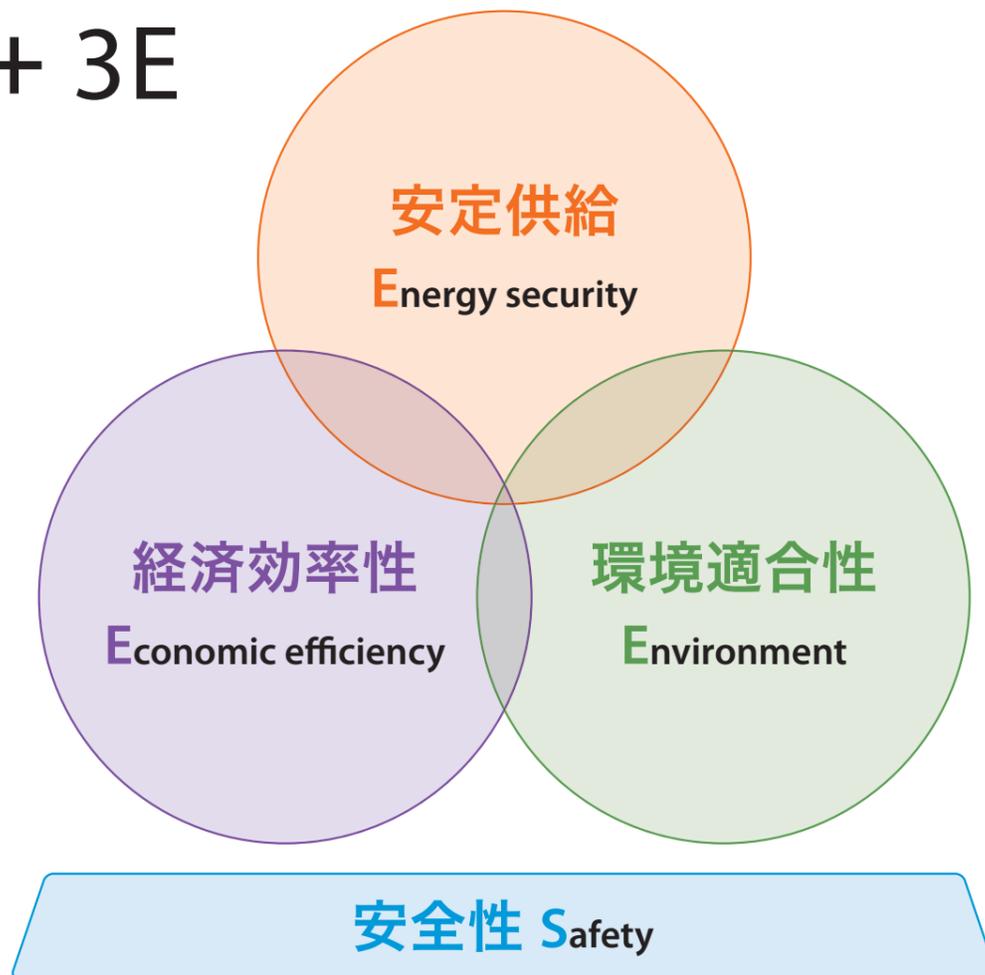


## 日本のエネルギー政策「S+3E」

S + 3E



※これらの頭文字をとって「S+3E」と呼んでいます。

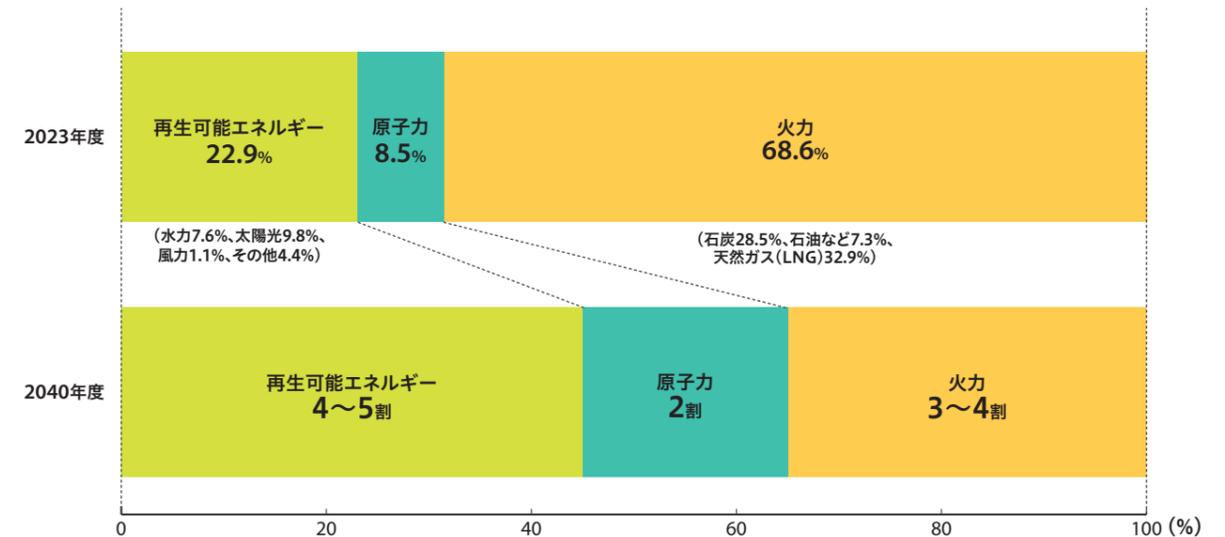
資源の乏しい日本が、これからも安定した社会を維持するためには、安全性(Safety)を大前提として①安定供給(Energy security)と②経済効率性(Economic efficiency)を向上させ、かつ③環境適合性(Environment)も考慮しなくてはなりません。この考え方は、それぞれの頭文字をとり、S+3Eと呼ばれます。

みなさんも、前のページでエネルギーミックスを考えてみて、その難しさが分かったと思いますが、それぞれの発

電方法のメリットとデメリットを考慮しながら、各電源の長所と短所を補い合うように組み合わせなくてはなりません。S+3Eを実現するためには、特定の発電方法に依存せず、バランスのとれたエネルギーミックスを実現させることが大切です。

## 日本が目指す将来の電源構成

第7次エネルギー基本計画における電源構成



AIの普及などにより、将来の電力需要は大きく増加することが見込まれていますが、安定供給、経済性、環境面をいづれも成立させる観点から、日本は、様々な電源をバランスよく活用するエネルギーミックスを目指しています。

2025年に発表された、最新の計画(第7次エネルギー基本計画)による発電方法の組み合わせは、2040年までに脱炭素効果の高い電源である再生可能エネルギーと原子力をともに最大限活用することを目標としました。

具体的には、再生可能エネルギーが4~5割、原子力発電を2割、火力発電を3~4割とし、それぞれの発電方法の長所を活かし、短所を補いながら、S+3Eを実現する発電方法の組み合わせを目指しています。

2050年のカーボンニュートラルの実現においても、二酸化炭素の削減という環境面だけではなく、電気のコストという経済効率性や電気の安定供給も同時に実現することが求められています。